

令和6年度 校内研修実施計画書

1. 研究主題

「いきいきと学び合う子どもをめざして」

教科・領域 . . . 国語科を窓口とした生涯に生きる構造的思考力の育成

2. 主題設定の理由

(1) 学校教育目標の具現化から

本校は、学校教育目標に「わかる授業、友だちいっぱい、今日も来てよかったと思える白子小学校」を掲げ、授業を通して仲間と関わり合い、支え合える学習集団づくりを大きな柱の一つとしている。子どもたちが、仲間との学び合いの中で、主体的・意欲的に学習に取り組み、「わかった」「できた」という達成感を味わえば、「もっと知りたい」「できるようになりたい」という学習への関心・意欲が高まり、学力向上につながっていくと考えてきた。

(2) 研究の経緯・児童の実態から

本校児童は、素直で面倒見よく下級生に対しても優しい児童が多い。学習に対しても真面目に取り組む。算数科に対して、苦手意識をもっている傾向があったため、平成29年度から、研究主題「いきいきと学び合う子どもをめざして」において、子どもたちの学び合いを大切にしながら、窓口を算数科にし、基礎学力の底上げ、思考力・判断力・表現力といった課題解決能力の育成、主体的・意欲的な学習態度の醸成をめざして研究を進めてきた。そして、平成30年・31年度に鈴教研の研究委託を受け、研究発表会を行った。児童は、学び合いに抵抗がなくなり、考えを比べたり、多様な考えに気づくことができたりするようになっている等の一定の成果を得た。

その結果、算数に対しては一定の基礎学力が定着できた反面、算数科においても国語科においても記述の問題に課題があることわかってきた。無回答率は低いのに、正解できていない。つまり、何を問われているのか理解できない、自分の伝えたいことがうまく伝えられないからこそ国語に苦手意識を抱いていることがわかってきた。

そこで、令和4年度から窓口を国語科・説明文に変更し、基礎的な語彙力・読解力の向上、表現力・コミュニケーション力の育成に取り組んできた。そのため、全国学力調査やスタディチェックでは、国語科は平均点を上回ることができた。

しかし、現実に学校での児童は

- ① 自分の伝えたいことを適切に表現できない。→自分の思いが人に伝えられない。
- ② 読解力が弱く、条件に合うように記述する表現力も乏しい。→人の伝えたいことが理解できない。
- ③ 目的意識が低く、根気強く課題に取り組むことが苦手である。→すぐあきらめる。

上記のような姿であり、トラブルが多い生活であった。

このような実態から、今年度は構造的思考力を身につけ、文や友だちの思いを読み解く力を養い、窓口

は国語とするが、将来的に各教科・日常生活に生かし、自ら考え行動できる子どもを育成していきたいと考える。

3. 研究の基本的な考え方

(1) 「いきいき」とは

児童が主体的・意欲的に学習に取り組んでいる様子と考える。具体的には次のような姿である。

① 課題と向き合い、粘り強く解決しようとする姿

「難しいな、もうちょっと考えさせて」「半分できた、あとがんばろう」

② 課題解決の中で、新たな課題を見出したり、考えようとしたりする姿

「別の考え方だとどうなるかな」「これは、どうなるのかな」

(2) 「学び合う子ども」とは

児童が一生懸命、互いの考えを伝え合い、その中で、より分かりやすい考えを見出したり、自分とは違う友だちの意見を受けとめようとしたりできる子どもと考える。具体的には、次のような姿である。

① 自分の考えを見直す（修正）ことができる。

「・・・さんの意見の方がわかりやすいな」

② 自分の考えをより詳しくする（補充）ことができる。

「ここは、こういう表現にすると、わかりやすくなるね」

③ 自分の考えを深め広げる（発展）ことができる。

「間違ったのは、・・・だからだな」「・・・さんと考え方は同じ（違う）だな」

④ 新たな考えに気づく（発見）ことができる。

「そうかあ、そういうふうにも考えることもできるんだ」

(3) 構造的思考力とは

構造学習をベースとした学習方法であり、その学習方法で身に着けられる思考力である。

構造学習を一言でわかりやすく説明すると、「自分で考える力をつける学習」である。書かれていることの背景にある、著者・筆者の意図を自分なりに構造的に理解する学習とも言える。身につく力としては

1, 洞察力

・見えている場面からその奥にある本質（軸）を見抜く。

例：けんかしている場面で見えている状況から何が起こったか公平に見抜く。

・目的を持つ、見通しをもつ、今大事なことは何か

例・係や委員会は何のためにあるのか自ら目的をもち見通しをもって行動する。

2, 分析・統一力

・つかんだ軸とその周辺にちりばめられている要点（情報）を見極め関係づけ、目的に向かう。

・すべての部分を目的（軸）につなげられる。（統一できる）

・目的に沿って情報を取捨選択できる。

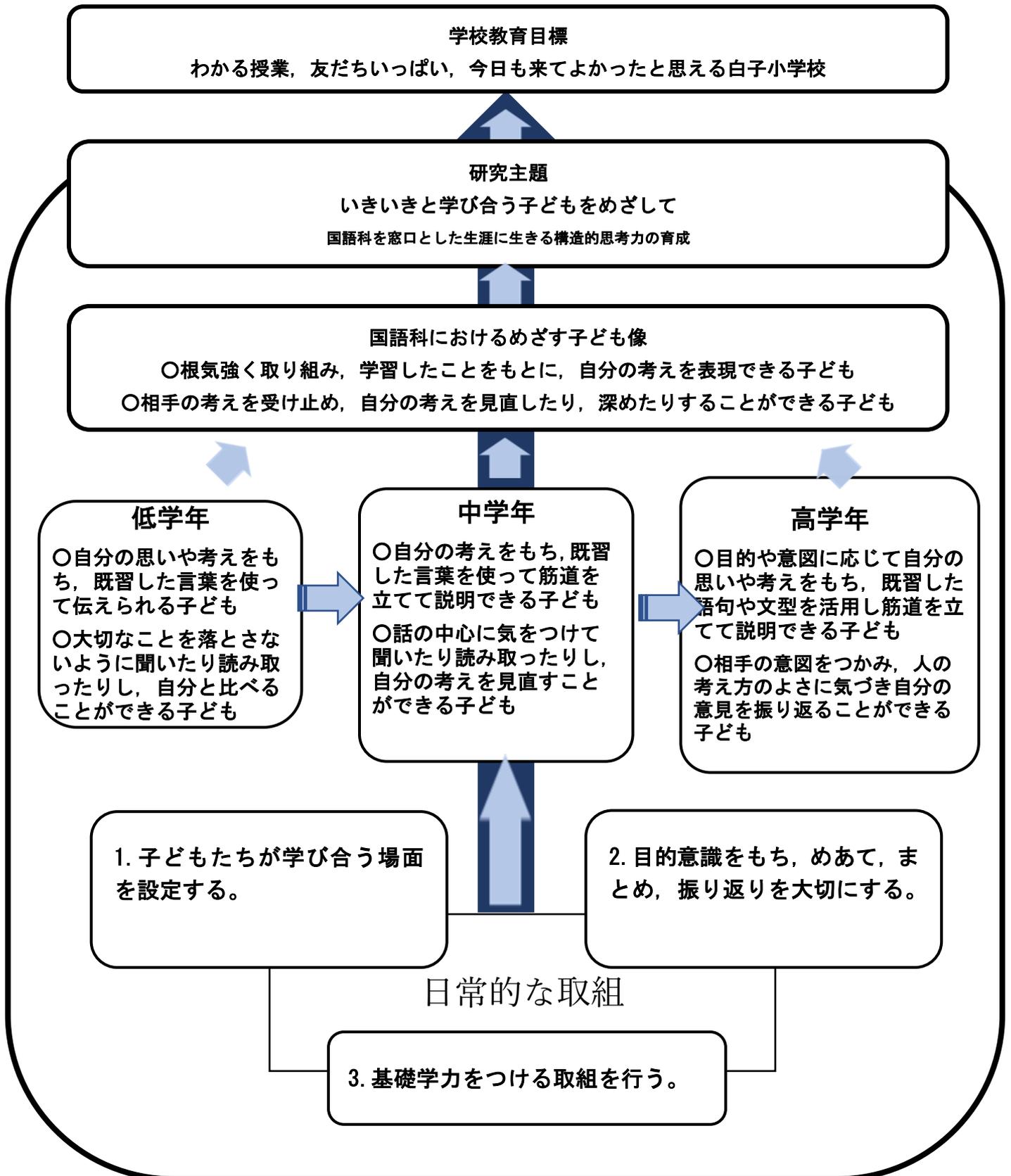
例：活動の目的に向かって、何をどのように進めていけばいいか計画を立てる。

3, 観点変換力

・物事をいろいろな観点から見て、柔軟に対応できる力。

例：想定外の出来事に出会ったとき、パニックになったり、諦めたりするのではなく、ほかに解決法がないか考えること。

4. 研究構想図



5. 国語科におけるめざす子ども像

- ・根気強く取り組み、学習したことをもとに、自分の考えを表現できる子ども
- ・相手の考えを受け止め、自分の考えを見直したり、深めたりすることができる子ども

(低学年)

- ・自分の思いや考えをもち、既習した言葉を使って伝えられる子ども
- ・大切なことを落とさないように聞いたり読み取ったりし、自分と比べることができる子ども

(中学年)

- ・自分の思いや考えをもち、既習した言葉を使って筋道を立てて説明できる子ども
- ・話の中心に気をつけて聞いたり読み取ったりし、自分の考えを見直すことができる子ども

(高学年)

- ・目的や意図に応じて自分の思いや考えをもち、既習した語句や文型を活用し筋道を立てて説明できる子ども
- ・相手の意図をつかみ、人の考え方のよさに気づき自分の意見を振り返ることができる子ども

これらのめざす子ども像を児童自身にも意識させるため、各教室に以下の内容を掲示する。

低学年

じぶんなりのかんがえをもとう すすんではなそう ともだちのかんがえをよくきこう

中学年

ならったことをつかって考えをもとう 考えを伝えよう 考えをくらべ合おう

高学年

習ったことをつかって考えをもとう 自分の考えを説明しよう 考えを深め合おう

6. 具体的な方策

めざす子ども像に迫るために以下の手立てを用いていく。

1. 子どもたちが学び合う場面を設定する。
2. 目的意識を持ち、めあて、まとめ、振り返りを大切にする。
3. 基礎学力をつける取組を行う。

(1) 子どもたちが学び合う場面を設定する。

①単元を見据えて学習活動の中に伝え合う場面（ペア・グループ・全体）を設定する。

②教師が意図的に効果的な学習形態を工夫する。

③話す・聞く双方向の伝え合いを意識する。

- ・児童一人ひとりが自分なりの考えをもつ。
- ・考えがはっきりもてない場合、「・・・が分からない」「ここまで分かったけど・・・」「どう考えたの？」と言える学級づくりをする。
- ・話す友だちの方を見て、うなずいたり、「なるほど」「そうそう、ぼくも同じ」など、反応したりしながら聞く。

④学びが深まる手だてを工夫する。

- ・身近な問題や例を取り入れる。
- ・ICTを活用する。
- ・困り感のある児童への指導の手だてを工夫する。

(2) 目的意識をもち、めあて、まとめ、振り返りを大切にする。

何のために、今、この学習をしているのかという目的意識がないと、「させられている学習」にすぎず、活用能力が高まらない。ゴールへの見通しをもち、そのために今、この学習をしているという意識が大切である。

そこで、毎時間、めあてに正対したまとめ、振り返りをするることにより、児童は身についた知識や技能を確認し、その学習の意味を理解し、学んだことへの達成感を味わうことができる。そして、次への学習意欲が高まり、学力向上につながっていくと考える。

一方教師にとっても、児童のまとめ、振り返りを基に、授業で身につけるべき力がついたのかを確認することができ、次時の授業に活かすことができる。

① めあて

その授業における教師側から捉えた目標やねらい（どのような力を身に付けさせたいか）を達成させるために、児童自身が「今日は何を考えるのか」「何ができたらよいのか」意識するためのもの。問題を理解させた後、既習と未習の違いや思考のズレに着目させ、児童からひきだしたり、指導者が提示したりして設定する。こうすることで、主体的・意欲的に学習を進めることができる。その際、授業の「まとめ」と正対するように設定する。

② まとめ

めあてとまとめの両者は基本的に正対している。教師がその授業でねらっている身につけさせたいことや指導事項がそれにあたる。具体的な問題の解決を通して、児童自身が「何が分かったのか」

「何ができたのか」「何が身についたのか」をまとめる。キーワードとなる部分を穴抜きにした文章を提示し、そこを埋めるような方法から、めあてに呼応するような書き出しを確認した上で、児童自身にキーワードをつないで文章化させる方法へと段階的に指導してもよい。

③ 振り返り

内容面でのまとめを踏まえ、1時間の自分の学びについて児童自身が「どう学んだのか」「どうして解決できたのか（できなかったのか）」「友だちどうしの学び合いはうまくできたか」など学習態度面や自分自身の理解度を振り返る。

国語科の場合、まとめと振り返りが密接している場合がある。その場合はまとめ＝振り返りとしてもよい。

また、本時で身についた考え方を活用し、思考の過程を確認しながら適用問題を解き「わかった」「できた」と自己評価することも、達成感を感じた振り返りと考える。

【板書の色分け】
 めあて・・・青で囲む。
 振り返りやまとめ・・・赤で囲む。
 大切にしたい言葉や文・・・黄色や黄囲み

(3) 基礎学力をつける取組を行う。

①授業力UP5を意識した授業づくり

「授業力UP5★」 ～子どもたちが主役の授業へ～

資質・能力 ・育成を目指す「資質・能力」が明確になっているか。
 ・それを達成した児童生徒の姿が具体的に想定できているか。

<p>★ めあて</p> <p>↓</p> <p>★ 学習活動</p> <p>↓</p> <p>★ まとめ 振り返り</p>	<p>★ 端末活用</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に学習に取り組める「めあて」になっているか。 ・授業で何をやるか（見通し）が明確になっているか。 <ul style="list-style-type: none"> ・課題解決に向け、個別の学習活動が設定されているか。 ・自分の考えを伝えたり、友だちの考えを聞き合ったりする協働的な学習活動が設定されているか。 <ul style="list-style-type: none"> ・「めあて」に正対した「まとめ」や「振り返り」になっているか。 ・「何を学習し、何が分かったのか、何ができるようになったのか」等、振り返りの視点が明確になっているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいを達成するための手段として、効果的な活用場面が設定されているか。 ・端末の活用が、個別最適な学びや、協働的な学びにつながっているか。

★・・・1時間の授業を考える5つの視点

②学習プリント（ドリルパーク・学 Viva 含む）

○ねらい 既習事項の定着や自主的な学習態度の育成を図る。

○方法

- ・各学年45種類のプリントを入れた棚を各学年の教室前廊下に設置する。
- ・前年度成績を踏まえ、自分の立てた目標を設定して、朝学習や自主学習、授業のすき間などの時間を活用して取り組む。
- ・児童は、様々な学年のプリント棚から自分が挑戦したいプリントを自由にとって取り組む。授業内容と関連づけて既習学年のプリントで復習したり、上の学年のプリントに挑戦したりする。
- ・プリントの添削は、学習ボランティアを中心に行う。（コロナ禍の間は例外）たくさん種類があるため、学年ごとの提出ボックスを用意し、種類別に整理して提出させ、添削しやすい環境を整えている。
- ・添削が終わったプリントは、全校共通のファイルに挟んで、各学期の取組枚数を集計する。
- ・学習の進度・内容に応じて担任団でアレンジしてもよい。

②音声計算

○ねらい 計算力の向上や基礎学力の定着を図る。

○方法

- ・音声計算プリントと解答プリントの2種類を用意する。
- ・児童はペアになり「計算する側」と「答えを確認する側」に分かれて計算練習をする。決めた時間で交代し、お互いが計算練習を行う。
- ・プリントの内容によっては、各自で行うことも可能である。
- ・宿題として使う際には、必要分を持ち帰ったり、本読みカードに貼ったりして取り組む。

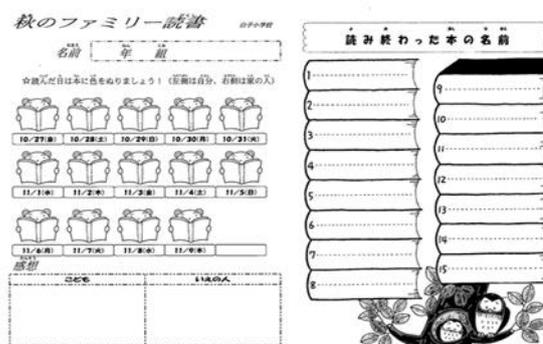
○内容

- ・たし算、ひき算、九九、わり算などの基本的な計算。
- ・公式などの算数のきまり

* 出典「パワーアップ読み上げ計算ワークシート」（明治図書）

③ 読書活動の充実

- ① 読書のあゆみ
- ② 夏冬休みの読書カード
- ③ 読書ビンゴ
- ④ 秋のファミリー読書
- ⑤ 巡回指導員との連携（ブックトーク）
- ⑥ お話宅配便（教師の読み聞かせ）
- ① ブックック（読み聞かせボランティア）



④ 家庭学習

・家庭学習の手引きを作り、保護者に向けて啓発する。（学級懇談会で配布）

宿題の基本 → 音読・漢字・計算（・復習プリント）

時間の目安 10分×学

⑤ サマースクール(夏休み補充学習)

- ・ 3日間程度 補充学習が必要な児童が参加

○その他

①学調・みえ SC への取組 (直前の対策)

②学調・みえ SC 結果分析と改善策の検討

③朝の学習

④学習ボランティア活用

- 学習支援 (支援・〇付け・読み聞かせ・校区案内)
- 技能補助 (ミシン・裁縫・調理実習・工作補助・書道補助)

⑤情報活用能力の育成

①ICT を活用した授業推進

(ICT サポーターとの連携のもと、月1回 ICT 推進委員会を開催する。)

- ・ 効果的・効率的な指導のための ICT 活用
- ・ 児童の言語活動の充実のための ICT 活用

②プログラミング教育の推進

③定期的なミニ研修会

④日常的なタイピングスキル向上の取組

7. 全体研修会について

- ・ 全体研究授業は、とびうお1本、国語2本、人権授業が1本の計4本。
(学年部内で算数・人権に分かれる。)
- ・ 授業は45分間を原則とする。
- ・ 可能な限り、指導主事を招聘する。
- ・ 提案授業実施日までに、指導案を学年部で検討する。検討した指導案を、遅くとも2日前には、全員に配布する。教育指導課には、1週間前までには、送付する。
- ・ 学年の事前授業についても連絡し、可能な限り参観するようにする。
- ・ 事後研修会を行い、児童の様子を通して、右の視点で研究協議し、手立ての検証をする。

- ・ 学び合いは効果的だったか。
- ・ 子どもたちは、めあてを達成できていたか。
- ・ その他

事後研修会では、教師も小グループに分かれグーグルドキュメントを活用して協議する。

(2) ミニ研修会について (ICT も含む)

- ・ 指導のワザ・コツを互いに交流し合い、指導力・授業力の向上を目指す。
- ・ 30分程度とし、参加は希望者

例：教材分析の仕方

ICT を活用した授業実践

音読の工夫の仕方 など 研修内容の希望があれば研修部まで

9. 研修組織 研修委員仕事分担



10. 2024年度の月別研修計画

月	日	研 修 内 容
4	14	・第1回全体研修会 研究主題・研究内容・研究組織・研修計画など
6		・第2回全体研修会（授業研究）もしくは（教研集会資料考察）
7 8	下旬 月上旬	・サマースクール ・第3回全体研修会（教研集会準備） ・第4回全体研修会（模擬授業）（教研集会準備）
	19 下旬	・教育講演会 ・教研集会
10 11		・第5回全体研修会（授業研究） ・第6回全体研修会（授業研究） ・第7回全体研修会（授業研究）
2 2 3	5 12 5	・第8回全体研修会 「算数科」2024年度の反省・成果と課題 ・第9回全体研修会 「研修」2025年度の方向性 ・研修収録とじ

* 人権全体研集会が適宜入る。

※ミニ研修会も適宜入る。

※学習公開も適宜入る。

※みえスタ・学力調査分析も入る。

(2) 指導について 単元の指導についてと、3つの手立てを単元の学習でどのように位置づけているのかを書く。

1. 子どもたちが言葉を使って学び合う場面を設定する。
2. 目的意識をもち、めあて、まとめ、ふりかえりを大切にする。
3. 基礎学力をつける取り組みを行う。(本時でなくてもよい)

4. 指導計画 (全○時間)

次	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法

5. 本時の指導

(1) 本時の目標

(2) 指導過程

時間	学習活動	指導上の留意点・支援	評価
	1. 2.	・ 授業者の予想に反した児童にどのような対応をしていくのか、あるいは、問題が解けずに困っている児童に対してどのような手立てを施すのかといったことも記入していくようにする。	1時間の中で確実に評価できることを書く。

6. 授業を見る視点

- ・ 学び合いは効果的だったか。
- ・ めあては達成できたか。
- ・ その他